

3. 日本の感染症対策・制度（対策コース）および結核診断検査技術（ラボコース）の研修

公益財団法人 結核予防会

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

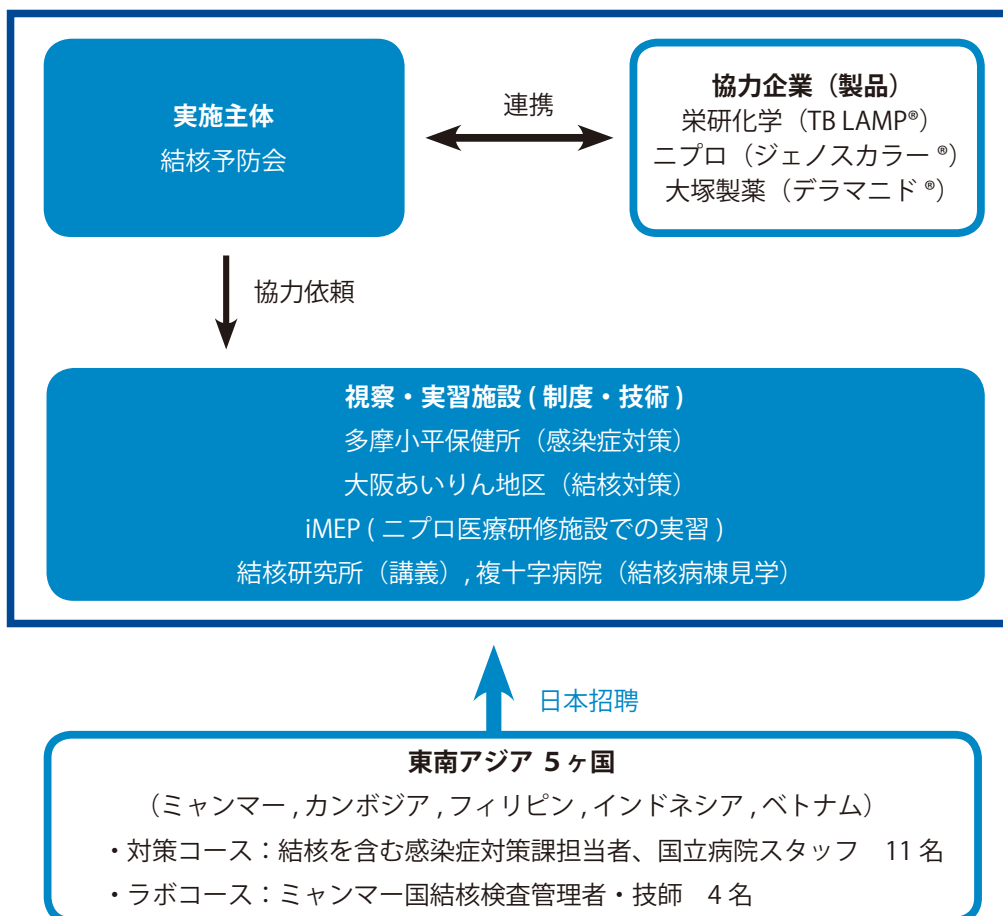
東南アジアの国々は、結核を含む感染症に未だ多くの課題を抱えている。一方、日本は早期診断・治療、および国民皆保険などの社会制度・法整備、官民連携などにより主要な感染症を克服してきた。この経験から、今後はユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けて、医療分野における国際貢献を果たしていくことが重要な課題である。

【活動内容】

日本の感染症対策や医療制度に関する経験、および、日本発の新結核診断技術が対象国の感染症問題の解決の糸口になることを目的とした。

【期待される成果や波及効果等】

「日本の感染症対策や社会制度・法整備、結核診断技術に関し、自国への導入の可能性とその課題を認識すること」を期待される成果とした。



背景・目的・期待される成果

- 東南アジアの国々は、結核を含む感染症に未だ多くの課題を抱えている。一方、日本は早期診断・治療、および国民皆保険などの社会制度・法整備、官民連携などにより主要な感染症を克服してきた。この経験から、今後はユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に向けて、医療分野における国際貢献を果たしていくことが重要な課題である。
- 日本の感染症対策や医療制度に関する経験、および、日本発の新結核診断技術が対象国の感染症問題の解決の糸口になることを目的とした。
- 「日本の感染症対策や社会制度・法整備、結核診断技術に関し、自国への導入の可能性とその課題を認識すること」を期待される成果とした。





保健所視察



あいりん地区視察



最終ワークショップ



最終ワークショップ

事業の成果

【研修における学び】

- 感染症法の順守
- 医療制度と社会福祉の連携
- (感染症対策における)保健所の役割
- 結核患者登録・報告の義務
- 官(保健所・都道府県・国)民(民間医療機関)連携した感染症対策の実施
- TB-LAMP(喀痰検査としての顕微鏡検査に対する優位性)
- デラマニド(多剤耐性結核治療薬)
- 喀痰塗抹陽性結核患者の入院治療
- 日本人の勤勉さ、意識の高さ、価値観

研修生へのアンケート

「感染症対策、社会制度・法整備、結核診断技術等に関する新しい知識・技術が得られた」(総合平均4.5/満点5)

事業の成果

【自国へ導入したい制度・技術等】 【課題】

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 開業医・民間病院との連携(保険制度や政府支援を通じた民間へのインセンティブ)・ 社会福祉(結核治療における)との連携・ TB-LAMPの導入・ ジェノスカラーの導入・ 検診車(胸部X線撮影)を活用した健康診断(早期発見早期治療)・ 感染症法遵守に対する意識 | <ul style="list-style-type: none">・ 民間との連携不足・ ガイドラインの不遵守・ 結核患者の発見率増加・ 多剤耐性結核患者の増加・ 人材不足、インフラの弱さ・ 新しい診断技術に対する資金不足・ 医療保険制度の範囲の限界 |
|---|--|

事業の成果

【導入に向けての取組み】

- ・ 開業医との連携強化
- ・ 結核対策へのコミットメントを得るためのアドボカシー活動
- ・ TB-LAMP導入に向けた提言と検査室との連携
- ・ 現制度の運用強化(強いコミットメント, 政治的な意思決定を促す)
- ・ 健康保険制度の改善

今後の課題と対策

- ・ **診断技術のWHO推奨**
新規診断技術の導入に関して関心は非常に高いが、TB-LAMP®はWHO推奨が現時点では得られておらず、各国の公的政策に組込むことは困難な状況。まずは民間レベルで普及を期待。日本の技術の比較優位性を実証するため、JICAの民間連携支援スキーム等を活用し、栄研化学やニプロと共同でプロジェクト実施を検討。
- ・ **各国政府の認知・コミットメント**
研修生やその所属機関との共同事業や研究活動を通して、日本の制度や技術の認知、知見や技術の導入に向けたコミットメントが得られるよう支援。